分析結果報告書〔２〕　１／２

１．２　排水試料(BOD)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	１．ISO 9001～9003　２．ISO/IEC 17025(ｶﾞｲﾄﾞ25)　３．ＭＬＡＰ ４．環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 ５．(上記１～４を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	（　　）年
分析主担当者の実績 （年間の分析試料数）	（　　）
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	１．あり　　２．なし

回数	分析結果（mg/L）　　注１）	
	検出下限値以上　　注２）	検出下限値未満での検出下限値　注３）
１回目		
２回目		
３回目		

注１）一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。
注２）検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字３桁で記入する。
注３）検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字１桁で記入する。

分析開始月日	月　　日
分析終了月日	月　　日

分析方法	１．JIS K 0102の21の方法　２．その他（　　）
使用した水	１．蒸留水　２．ｲｵﾝ交換水　３．超純水　４．その他(　　)

＜希釈試料の調製に用いた希釈水＞

植種の有無（希釈水の種類等）	１．植種あり（植種希釈水を使用） ２．植種なし（希釈水を使用） ３．その他（　　）
植種希釈水を使用した場合 調製に用いた植種液の種類	１．下水（家庭下水、下水排水（処理水）又はその上澄み液等） ２．排水処理でのばっき槽水又はその上澄み液等 ３．河川水 ４．湖沼水 ５．土壌抽出液（土壌と水の混合液の上澄み液等） ６．その他（　　）
調製に用いた植種液のＢＯＤ	(　　)mg/L　　注４）
希釈水への植種液の添加量	希釈水1000mLあたり(　　)mL

注４）測定値を記入する。

＜試料の前処理＞

前処理	１．行わない ２．行う　その方法(　　)

＜段階的な希釈試料の調製＞

調製した希釈試料の段階の数	(　　)
希釈の方法	１．メスシリンダー（有栓形）を使用して希釈 ２．メスフラスコ（全量フラスコ）を使用して希釈 ３．培養瓶で直接希釈 ４．その他の方法(　　)
消化抑制	１．行わない ２．行う　その方法(　　)

＜培養の方法＞

培養瓶の容量	(　　)mL　　注５）
恒温（20±1℃）の方法	１．恒温器（恒温室）　　２．恒温水槽 ３．その他(　　)

注５）異なった容量の瓶を用いた場合には、概略の容量を記入する（例えば、103、101、102mL‥‥では、100mLとする）。

＜溶存酸素（ＤＯ）の測定＞

測定方法	１．よう素滴定法（ウインクラー･アジ化ナトリウム変法） ２．ミラー変法 ３．隔膜電極法 ４．その他　その方法(　　)

分析結果報告書〔２〕　２／２

＜溶存酸素（ＤＯ）の測定：滴定法（よう素滴定法又はミラー変法）＞（１回目の結果を記入する）

希釈段階　　注１)	P 注２)	15分後の溶存酸素の測定		5日後の溶存酸素の測定	
		試料量（mL）	滴定量（mL） 注３)	試料量（mL）	滴定量（mL） 注３)
1					
2					
3					
4					
5					

注１)前記 ＜段階的な希釈試料の調製＞で調製した段階的な希釈試料ごとに記入する(5段階を超える場合には5段階まで記入する)。
注２)Ｐは希釈試料中の試料の占める割合（試料/希釈試料）を示す（Ｐ値が大きい順に記入する）。例えば、3段階希釈では、
1段階：Ｐ=0.04（25倍希釈）、2段階：Ｐ=0.02（50倍希釈）、3段階：Ｐ=0.01（100倍希釈）の順のように記入する。
注３)よう素滴定法では25mmol/Lチオ硫酸ナトリウム溶液の滴定量（mL）、ミラー変法では硫酸アンモニウム鉄（Ⅱ）溶液（硫酸5mLを水100mLに加え、これに硫酸アンモニウム鉄（Ⅱ）六水和物5.4gを溶かし水を加えて1Lとしたもの）の滴定量（mL）を記入する。

＜測定記録（１回目）＞

希釈段階　　注１)	P 注２)	溶存酸素(mg/L)		溶存酸素の消費率(%) 注４)	ＢＯＤの値 注５)
		D1 (15分後の溶存酸素)	D2 (5日後の溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

注１)前記 ＜段階的な希釈試料の調製＞で調製した段階的な希釈試料ごとに記入する(5段階を超える場合には5段階まで記入する)。
注２)Ｐは希釈試料中の試料の占める割合（試料/希釈試料）を示す（Ｐ値が大きい順に記入する）。例えば、3段階希釈では、
1段階：Ｐ=0.04（25倍希釈）、2段階：Ｐ=0.02（50倍希釈）、3段階：Ｐ=0.01（100倍希釈）の順のように記入する。
注４)溶存酸素の消費率（%）は(Ｄ1－Ｄ2)/Ｄ1×100として算出する。
注５)ＢＯＤの算出に用いた希釈試料（希釈段階）に該当する欄に値を記入し、他は空欄とする。

＜測定記録（２回目）＞

希釈段階　　注１)	P 注２)	溶存酸素(mg/L)		溶存酸素の消費率(%) 注４)	ＢＯＤの値 注５)
		D1 (15分後の溶存酸素)	D2 (5日後の溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

＜測定記録（３回目）＞

希釈段階　　注１)	P 注２)	溶存酸素(mg/L)		溶存酸素の消費率(%) 注４)	ＢＯＤの値 注５)
		D1 (15分後の溶存酸素)	D2 (5日後の溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

＜試料の保存状況＞

保存状況　　保存方法等 保存温度	１．冷暗所保存　　２．保存しない（直ちに分析）　３．その他（　　） 約(　　)℃

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	

計算式	